

(注) 1. 投資一任会社
投資判断と投資に必要な権限を投資家より委任されている。投資家から資金を預かり、それを運用する業者(例・村上ファンドなど)が投資一任会社

2. 投資助言会社
投資家への投資助言のみを行い、最終的な投資判断は投資家自身に任せるものを投資助言業務という

3. 社団法人日本証券投資顧問業協会
投資家の保護と投資顧問業の健全な発展を目的とした公益法人。すべての登録投資顧問会社が加入しているわけではなく、入会には任意。入会に際し審査があるため、加入している投資顧問会社の信頼度ははかる一つの指標と言える。1年当たり10万円の協会費の支払いが必要

(出所)日本証券投資顧問業協会

過度な期待にクギを刺す。そもそも投資顧問業者とは何なのか。サービスは2種類に大別できる。村上ファンドのように投資家から売買の判断を任せられる「投資一任業務」と、投資の助言だけを行い、売買の判断は投資家に任せる「投資助言業務」がある。ネット取引の活発化とともに、後者のサービスを利用する個人投資家が増加しつつある。登録投資顧問会社の数も2005年3月末に740を突破し、06年3月末時点で877に上る。うち投資助言会社が736社、投資一任会社が141社だ。だが、投資助言会社がすべて個人投資家向けに銘柄推奨情報を提供するサービスを展開しているわけではない。個人投資家向けの助言会社は前出の協会加盟会社のうちの数十社と見られる。

個人投資家からすると「投資のプロ」に見える助言会社だが、実は思いのほか簡単になれる。「内閣総理大臣の登録」を行う決まりだが、ハードルといえは500万円の供託金を支払うこと、やや作成が面倒な申請書を提出することくらい。ファイナンシャルプランナー(FP)をはじめとする投資や資産運用に関連する資格取得も必要ない。このため、登録投資顧問会社といっても、投資家に助言する情報について一定の質が保証されているわけではないのだ。投資の素人が運営する登録投資顧問会社も存在する。

著名業者処分で揺らぐ 投資顧問業界

有料の投資情報を扱う業者には、どことなく怪しげなイメージも付きまとう。関東財務局は今年4月26日、人気投資サイト「イー・キャピタル」を運営するイー・キャピタルに対し、5月10日から6月9日までの1カ月間の業務停止命令を出した。悪質と認定されたのは、04年4月ごろから05年11月1日までの勧誘行為だ。同財務局によると、同社は資料請求などを求めてきた投資家2100人以上に対し、「仕手筋の舞台裏情報 伝説のテレフォンが再来!!」と題する案内書を郵送。「当社だから

料金の相場は?

詳しくは104頁からの「個別サイト編」に譲るが、投資顧問料金は毎月6000〜7000円程度の低額のものから、月30万円程度の富裕層向けのもまで、業者よって千差万別だ。だが、イー・キャピタルの入会システムが業界内で料金などの目安になっている側面もあるといわれる。同社の場合、専属の担当者を付け、電話やメールなどで随時助言を行う特別情報会員(A会員)の場合、1年契約で登録費と会費を合わせて税込み210万円、B会員は63万円、C会員は26万2500円とな

使えるサイトは? 騙されないためには?

有料株サイト 徹底解剖

投資情報サイトをのぞくと、無料の情報と有料の情報がある。個人投資家なら「有料情報にはどんなオイシイ情報が詰まっているのだろうか」と一度は想像したことがあるだろう。ただし、おいしいような情報には注意が必要。高い値段でデタラメな情報を流す悪徳業者もいるからだ。信頼できるサイトを見つける手がかりを探ろう。

悪徳業者にご用心! 有料投資情報サイトの真実

有料の投資情報を流す投資顧問業者の実態と、信頼できるサイトを見つけるための手段を解説する

無免許業者に注意!

ネット証券での株取引が主流になった今日、銘柄選びのコツや売買タイミングを教えてくれた証券マンと個人投資家との距離は遠くなった。そこで投資家の関心を集めているのが、投資顧問業者などがホームページ(HP)やメールマガジンで行う有料の投資情報サービスだ。有料で投資情報を提供するサイトは、「ブロードバンド環境の普及や、Webページ作成・運営のコストが格段に低下したことで飛躍的に増大した。サイトの総数は把握できない」(業界関係者)という状況だ。

「素人」投資顧問業者も多数

ヤフーファイナンスの掲示板などでも、怪しげな投資情報サイトの関係者が、さかんに自社宣伝と見られる書き込みを行っている。こういったたぐいの業者に騙される投資家も少なくないようだ。30年以上投資顧問業を営むある古参の業者は、「無免許業者に対する規制を金融庁にお願いしても、「私

「儲けられるネタや銘柄を手っ取り早く知りたい」「ヤフーファイナンスやMSNなどのサイトに掲載される無料のニュースでは他の投資家に差を付けられない」。こんな思いから、投資のプロである投資顧問業者に少しでも多くの身銭を切れる

「加入を考える投資顧問業者の具体的な投資ロジックがどのようなものか、つまり推奨銘柄を業者が具体的にどのようにして選定しているかを投資家が認識し、それに自分自身が納得できるかどうかという問題になる。一番重要なのは、銘柄を推奨する段階に至るまでの業者のプロセスだ。推奨銘柄の選定の仕組みをプラットフォームボックス化（外部から分からないように）している業者は選ばないこと。そういう業者は、推奨銘柄について、独自に調査せずに、よその証券会社や投資顧問会社のレポートをつまみ食いしているケースもある。」

また、人によって投資の方法は千差万別。有料サービスへの加入を相談する際、投資の元手資金や経験年数などの基礎データのほか、低位株狙いか大型株投資かといった投資家側のニーズ・目的を把握しようとしてこない業者は避けるのが無難だ。「短期で利益を上げたいのに、長期保有の銘柄を推奨されて困った」といったミスマッチを防げるからだ。他にも、サイトの運営責任者の写真や経歴を明示し、どのような経歴を積んだ人がサイトを運営し、コンテンツを配信しているかが明確に分かるサイトが比較的安心だ。さらに言えば、商業行為を行っている以上、すべての有料サイトに必要な「特定販売法」に基づく表示義務がサイトにきちんとあるかどうか。また、会社やサービスの名前を冠した

投資家の能力アップも必要

有料情報の会員になる前にここだけはチェック!

- ・ 加入する前にサンプル情報を読めるか
- ・ 頻りにサイトの更新が行われているか
- ・ 単なる的中率の表示だけでなく、投資家を育てるといふ意図があるか
- ・ 銘柄選定の仕組みを明らかにし、推奨銘柄の推奨理由を説明しているか
- ・ 解約に関する説明・表記がきちんとされているか
- ・ 「仕手株情報やインサイダー情報を提供」などと謳っていないか
- ・ 匿名掲示板でのみ宣伝が散見されるサイトではないか
- ・ 会社の理念や目的、営業スタイルが投資家に分かりやすく開示されているか

「加入を考える投資顧問業者の具体的な投資ロジックがどのようなものか、つまり推奨銘柄を業者が具体的にどのようにして選定しているかを投資家が認識し、それに自分自身が納得できるかどうかという問題になる。一番重要なのは、銘柄を推奨する段階に至るまでの業者のプロセスだ。推奨銘柄の選定の仕組みをプラットフォームボックス化（外部から分からないように）している業者は選ばないこと。そういう業者は、推奨銘柄について、独自に調査せずに、よその証券会社や投資顧問会社のレポートをつまみ食いしているケースもある。」

（岡村薫・ジャーナリスト／武下毅・編集部）

有料の投資情報サイト

(情報提供系)
マーケットの情報などを提供するサービスが中心
(例)フィスコ トレーダーズ・アンド・カンパニー

投資顧問会社
約**900**社
(内閣総理大臣の登録)

(助言系)
具体的な銘柄を投資家に推奨するサービスが中心
(例)イー・キャピタル

無料の投資情報サイト
(ヤフーファイナンス・MSNなど膨大な無料サイト群)

ツール・教材販売サイト
投資に関するDVDやシミュレーションソフトを販売するサイト

(注)2006年8月16日現在
(出典)編集部作成

投資顧問会社
約**900**社
(内閣総理大臣の登録)

(社)日本証券投資顧問業協会
に加盟している
投資顧問会社
255社

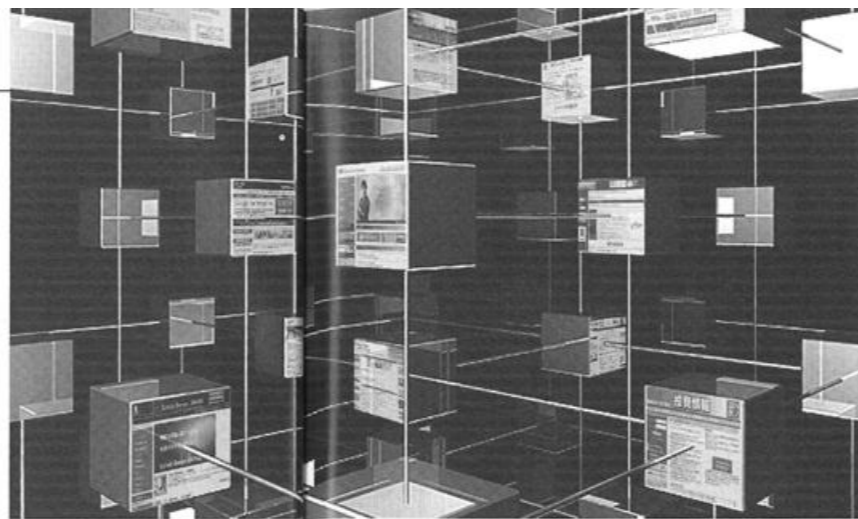
投資助言会社は119社。投資一任会社が136社
119社のうち個人投資家向けの投資助言業務を行っているのは数十社
日本証券投資顧問業協会のHP <http://jsiaa.mediagalaxy.ne.jp/aramasi/index.html>
に掲載されているので物色してみよう

「加入を考える投資顧問業者の具体的な投資ロジックがどのようなものか、つまり推奨銘柄を業者が具体的にどのようにして選定しているかを投資家が認識し、それに自分自身が納得できるかどうかという問題になる。一番重要なのは、銘柄を推奨する段階に至るまでの業者のプロセスだ。推奨銘柄の選定の仕組みをプラットフォームボックス化（外部から分からないように）している業者は選ばないこと。そういう業者は、推奨銘柄について、独自に調査せずに、よその証券会社や投資顧問会社のレポートをつまみ食いしているケースもある。」

「加入を考える投資顧問業者の具体的な投資ロジックがどのようなものか、つまり推奨銘柄を業者が具体的にどのようにして選定しているかを投資家が認識し、それに自分自身が納得できるかどうかという問題になる。一番重要なのは、銘柄を推奨する段階に至るまでの業者のプロセスだ。推奨銘柄の選定の仕組みをプラットフォームボックス化（外部から分からないように）している業者は選ばないこと。そういう業者は、推奨銘柄について、独自に調査せずに、よその証券会社や投資顧問会社のレポートをつまみ食いしているケースもある。」

個別サイト編

ここで紹介する13のサイトは、有料株サイトのごく一部。まずは自分の投資目的とサイトの特徴を吟味しよう。そうすれば、各業者のサービスの優劣もある程度はつかめるはずだ。

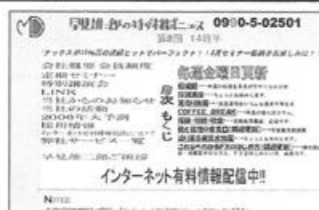


投資顧問会社(投資助言会社)

早見雄二郎の得ダネ株式ニュース

<http://www.hayami.org/>

[90年にダイヤルQ2を使った投資情報の提供を開始して以来、バブル崩壊、2000年のITバブル崩壊という下落相場を投資顧問業者として切り抜けたという実績がウリ。「株式評論家の早見雄二郎が、推奨した銘柄がたとえ下落しても、最後まで面倒を見ます。1日5回情報を更新しています」(早見氏)。



FAX会員：13万6500円/6
料 月、Eメール会員：17万
金 8500円/6カ月、レポート
会員：5万1450円/6カ月

グローバルリンクアドバイザーズ

<http://www.gladv.co.jp/index.html>

元エイベックス社員で中国株に詳しい戸松信博氏が代表。「弊社の特徴は、情報を配信する者がかなりの投資実績を上げているプロの個人投資家であること。確固たる投資の哲学を持った人とのみ契約している」と代表の戸松氏。中国株情報のほか、為替、日本株情報などを配信。



日本株通信：1万円/6カ月
料 中国株通信：3400円/月な
金 ど

トレーダーズ・アンド・カンパニー

<http://www.traders.co.jp/>

無料情報を多数配信。会員制の株式投資サイト、トレーダーズ・プレミアムでは、プロ向けに発信しているリアルタイム情報と同じものを見られる。調査機関のリポートなどをまとめ、注目すべき個別銘柄の情報提供などを行っている。



料 トレーダーズ・プレミアム：1万5000円/月、トレーダーズ・ダ
金 イレクト：プロ向けサービス、トレーダーズ・フラッシュ：210
円/月、トレーダーズ・モバイル：315円/月

光インベストメント

<http://www.hikari-investment.co.jp/>

情報は、どれくらいの上昇が狙えるか、どれくらい値が売れどきかを詳しく記載したものにしている。「昔は投資顧問業の免許を取るのが大変だったが、最近は簡単に取れるようになった。そのお陰で悪質な投資顧問も増えている。昔からやっているところが信頼できるという面はある」(取締役・工藤光伸氏)。



料 レポート会員：10万5000円
金 /年、1万5000円/月
成功報酬会員：52万5000円
+成功報酬金/年

MA投資の株式投資

<http://www.ma-investment.jp/>

富裕層向け事業を行うアブラム・グループの子会社で、投資助言サービスを展開。外資系の業者ではない。推奨銘柄を月1本に絞っているのが特徴。「株式投資では、徹底した企業分析・取材が重要。推奨銘柄の昨年の上昇率は平均288%でした。このレポートで日本にも真の投資家が育てばと思います」。



料 スタンダード・コース：26万
金 8000円/月、スタンダード・フ
ァースト・コース：50万円/月、
5万円/月の低額サービスも

トレーディングスター

<http://www.tradingstar.co.jp/>

社長の藤原正男氏は、元日興証券の証券マン。インターネットラジオで、株価情報の配信もしている。「自分自身が株が好きでこだわりがあるからこそ、日本株に特化した投資顧問をやっている。情報の質はもとより、サイトに工夫を凝らし、個人投資家の方が読んで楽しくなるようなサイトであることを心がけている」。



料 デイトレ会員1銘柄：1万円、
金 システム会員：30万円/6カ
月など

兜町インターナショナル

<http://www.kabnet.co.jp/>

「創業して32年になる。投資顧問のなかではもっとも古い部類になるのではないと思う。30年来培ってきた人脈を活用して推奨銘柄を提示している。安易な情報を流す業者が増えてきた昨今、顧客に堅実な投資を勧め、危険な相場でのリスク管理のサービスに力を入れている」(代表・松下篤三氏)。



料 レポート会員：10万5000円
金 /年
電話会員：21万円/年など

シュルツ・ベルガー ジャパン

<http://schelz-berger.co.jp/>

サービスの質を維持するため、会員人数を60人までに制限する。社員は、経営コンサルタント出身者や元ベンチャー企業経営者で、企業研究を重視した銘柄の分析を行っている。「顧客一人一人に担当者をつけ、きめ細かなサービスを実施している。億単位の金額を動かしている人が主な顧客層」(アナリスト・入江賢次氏)。



料 20万円/月、50万円/3カ
金 月、90万円/6カ月

非投資顧問会社

カブ知恵

<http://www.kabutie.co.jp/>

元フィスコの藤井英敏氏、中村孝也氏を中心に、無料のメルマガと有料のリポートを配信する。「IPOを中心とした新興市場と先物を含む全体相場をバランスよく網羅している点がウリだ。いまのところ、投資顧問業の免許を取る予定はない。コンテンツ・プロバイダー事業に専念するつもり」(代表・藤井英敏氏)。



料 期間ごとに有料リポートを配
金 信。主に3150~2万1000円
/月

キッチンカブ

<http://www.kaboo.co.jp/>

短期トレード向けの情報配信。アナリスト、新聞記者、実力トレーダー20名程度がリポートを執筆。「ネット上の証券新聞」を自任。「来るものは拒まず去るものは追わず」というスタンスだ。読者が多いので、推奨銘柄を絞ると仕手株化してしまう。そうならないため推奨銘柄を50ほど、少ないときでも20ほど出す」(代表・鈴木正剛氏)。



料 カブフレンズ：7329円/月
金

かぶやさん.Com

<http://www.kabu83.com/>

投資顧問免許の取得は未定。日興証券と大和証券でリテール営業をやっていた瀬尾幸太郎氏が代表。「証券会社にいれば、手数料を得るためにその証券会社の推奨銘柄を売らなければならない。アナリストリポートも一般の人には難しすぎる。有益な情報を分かりやすく提供したい」。



料 一般会員：1万5000円/月
金 上級会員：3万1500円/月

リップパー・ジャパン(ロイター・ジャパン)

<http://www.investor.reuters.co.jp/home/>

内外株式10市場と為替7市場の情報を満載。コストパフォーマンスの良さがウリ。最初の1カ月は無料お試し期間として加入できる。特定の銘柄を推奨するようなサービスではない。「『株式・為替に強くなるコラム』がとくに人気」(アナリスト・松尾健治氏)。一部証券会社に口座を開けば無料で読める。



料 「リップパー・マーケット」レポ
金 ート：1050円/月